

<b>事例8 大館市内循環線「ハチ公号」</b>		0 1 2 3 4 5
■事業主体 ■秋北バス株式会社		利用者利便性 4
■運行事業者 ■秋北バス株式会社		地域の主体的関与 1
■運行区域 ■大館市街地		事業性 3
		間接効果 2

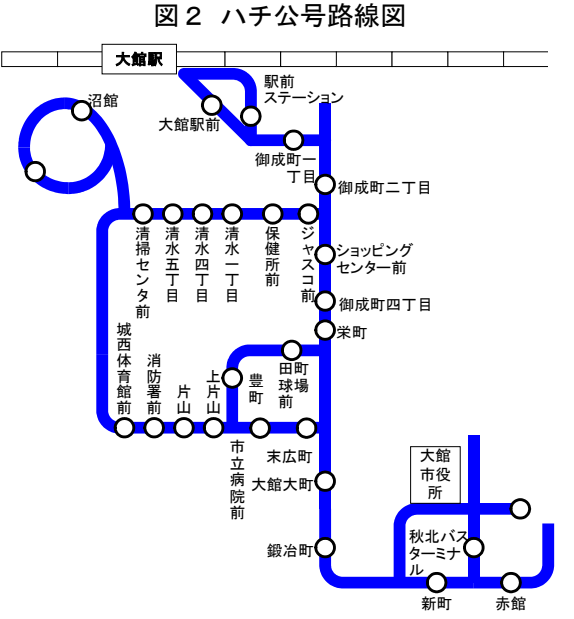
**導入の背景・目的**

人口約6万7千人の大館市においては、長引く不況及び急速な少子高齢化の進展、マイカーの増大及び交通手段の多様化などからバスを取巻く環境は極めて厳しく、市内運行バスシステムの効率化を図るため減便及び廃止を余儀なくされる現状となっている。しかし、通院や公共施設への移動手段を確保し、高齢者の社会参加を促すとともに、中心市街地等を活性化することは社会的要請であり、バス事業者としてもバス路線維持のために利用減に歯止めを掛け、新規需要の掘り起こしを目的とした新しい交通サービスを検討することとなった。全国各地で展開している新しい交通サービスの事例を参考として循環バスサービス事業を開始した。



**事業概要**

路線：大館鳳鳴高校～市立病院～バスターミナル～大館鳳鳴高校の循環路線  
 (1路線：往路コース、復路コース)  
 運賃：150円(大人) 80円(小児)  
 1日乗り放題乗車券 400円(大人) 200円(小児)  
 運行便数：「往路」11便/1日(平日) 9便/1日(休日)  
 「復路」4便/1日(平日・休日)  
 運行開始時期：平成10年8月  
 バスロケーションシステムの試験運用：  
 ・国土交通省の支援により平成14年2月より運用。バスロケーションシステム対応の大型モニターを市内の大型ショッピングセンターや総合病院に設置している。



## 導入時のポイントー苦労した点・工夫した点

### 【工夫した点】

- ・車両（中古マイクロバス4台）の購入。
- ・親しみやすいバスを目指すための車体ディスプレイの発案。
- ・乗務員としての退職OBの採用。

## 事業効果と今後の展開

### 【事業効果】

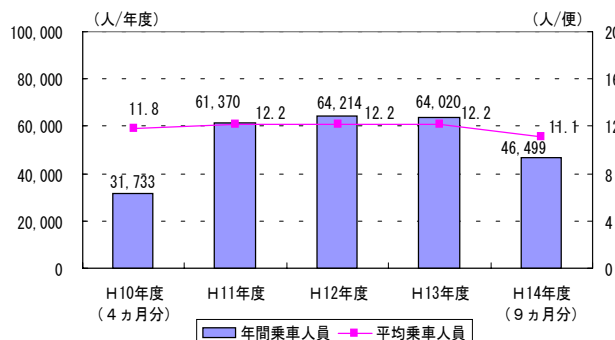
乗車人員：増便の分だけ乗車人員が増えているが、1便当りの平均乗車人員を比較すると増便以降ほぼ横ばい状態である。他の生活路線では、毎年乗車人員の減少が6%～10%程となっているので八チ公号においては、人員減少の歯止めになっている。

輸送収入：増便した分だけ確実に収入は伸びてはいるが、収支のバランスを維持するまでには到達していない（収支率40%程度）

効果が上がっている点：

- ・バス利用者の乗り継ぎの不便解消
- ・待ち時間の解消

図3 年間乗車人員及び平均乗車人員の推移



## 評価

対象	評価
利用者利便	・150円の均一料金によって利用者に値頃感を与え、循環線にしたことで乗り継ぎの不便を解消し増便を図るなど、従前に比べ格段と利便性が向上し、利用者満足度は高いといえる。
地域の主体的関与	・市等の支援を受けバスロケーションシステムの試験運用を実施しているが、基本的には事業者が独自に実施しており地域の住民および自治体等との関連性は少ない。
事業性	・利用者減少の歯止め、乗車人員の伸びはみられるものの収支改善にまでいたっておらず、利用者拡大への努力が必要といえる。
間接効果	・低廉な運賃で提供される交通サービスによって住民の移動性が拡大したことは、地域活性化に貢献したと評価できる。また、カラーリング・愛称の採用された車両導入は地域イメージ向上にも貢献しているといえる。